

インフルエンザについて

保健センター

【症状・経過】

インフルエンザウイルスの飛沫感染によって発症します。感染から発症までの期間は1～5日（平均3日）であり、発症後4～5日間は感染力があります。

38度以上の急な発熱、倦怠感、咽頭痛、鼻汁、咳、頭痛、関節痛などが主な症状です。

通常1週間ほどで治癒しますが、心筋炎や気管支炎、肺炎などの合併症を併発することがあります。また、重症化すると脳炎や心不全を起こすこともあります。

【診断・治療】

インフルエンザを疑うような症状がある場合、症状の程度にもよりますが、発症24時間前後で医療機関を受診するのがよいでしょう。

多くの医療機関で診断キットによる迅速診断が行われています（発症から24時間程度経ってからが最も良く検出されます）が、偽陰性も多く、診断は医師の総合的な判断によります。

治療には抗インフルエンザ薬が有効です。病状や経過を踏まえて、処方されます。投与により早期の症状改善が期待できます。

学校保健安全法ではインフルエンザは第二種感染症に指定されており、「発熱したのち5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで出校停止」となります。インフルエンザと診断された場合は、医師の指示に従い、自宅で安静にしてください。

参考) [中央大学保健センター「感染症による出校停止と諸手続について」](#)

【予防】

飛沫・接触感染しますので、手洗いとうがいを十分に行い、マスクの着用を心がけてください。

参考) [中央大学保健センター「感染症予防について」](#)

インフルエンザワクチンの接種が有効です。

ワクチンを接種することで感染しにくくなり、感染した場合も軽症で済みます。

ワクチンの効果は、接種後約2週間であらわれ、有効期間は約3か月とされています。流行時期が近づいたら、すみやかに予防接種を受けるようにしましょう。

【リンク】

[東京都感染症情報センター インフルエンザ](#)

[東京都インフルエンザ情報サイト](#)

[厚生労働省 インフルエンザ\(総合ページ\)](#)

[国立感染症研究所 インフルエンザとは](#)

以 上